

# 社会で活躍する卒業生

A graduate of Shimane University

No. 16

試験分析職

卒業後も様々な分野で活躍する島大OB・OG。その中から、山陰をフィールドに活躍する注目の人を紹介するシリーズ企画です。今回は神戸天然物化学株式会社に勤める竹澤さんに、現在の仕事内容やそこに至るまでの道のり、今後の展望についてうかがいました。



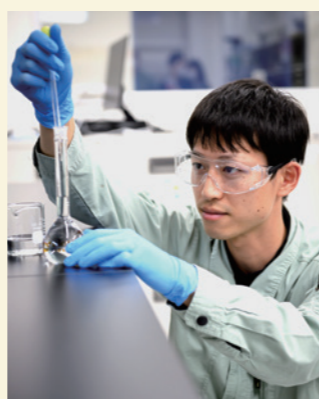
## Profile 竹澤 圭太 さん

神戸天然物化学株式会社  
機能材料第二部 品質管理課  
島根県飯石郡出身。2012年3月に島根大学大学院生物資源科学研究科修士課程修了、2016年3月鳥取大学大学院連合農学研究科博士課程修了。2016年4月に神戸天然物化学株式会社に入社する。現在は機能材料事業部に所属し、製品や原料の試験検査業務、試験機器の保守管理を行う。

フレストップサービスが強み  
化学の知識を活かして  
社会に貢献できるものづくり

新製品の開発には巨額の資金と長い年月が必要となります。より生産性を上げて、かつコストを削減したい。そういった理由から、ものづくり業界において、業務の一部を外部に委託するアウトソーシングの需要が増加しています。兵庫県神戸市に本社を置く神戸天然物化学株式会社は、医薬品や電子デバイス等の開発に必要な有機化合物の受託研究・開発・量産までを一貫して手掛ける会社です。同社でもっとも規模の大きい出雲工場では機能材料と医薬分野に取り組んでおり、機能材料を扱う部署に所属するのが竹澤さんです。機能材料事業部では、パソコンやテレビのディスプレイに用いられる液晶や有機EL等の電子部材を作るために必要な素子の一部となる化学品を製造しています。「お客様の処方をもとに、製造方法を検討します。ラボスケールや数百グラム程度でのテスト製造を実施し、安全性、生産性が確認できると工場規模での生産に入れます。最後に、製造した化学

品の品質確認を実施します。いずれの工程でも、お客様と頻繁に意見交換しながら進めています。」  
現在竹澤さんは品質管理課で試験検査業務を担当しています。純度や不純物量など複数の分析を行い、製品が品質規格通りにできているかを確認しています。試験項目は製品によって異なりますが、3〜10項目くらいの検査があるそうです。「私たちが作っているのはあくまで市場に出ている商品の素材です。製造に携わった物質が使われた商品が、実際に市販されていると聞くことがあります。そんな時は自分たちの仕事のものづくりを支えているのだなと実感します。化学の専門知識を使って、少しでも社会に貢献でき



検査業務を行う竹澤さん。

ていると思うとうれしくなりまし、もっと頑張ろうという気持ちになれます。」

学部・大学院の経験が現在の仕事にも繋がるより信頼される仕事をしたい

「化学の知識を活かして、現実的なものづくりにも携わることができ、同社では、約9割の職員が理系出身で、竹澤さんもその一人です。」高校2年の夏休みに、生物の先生の紹介で、生物資源科学部の研究室見学に参加させてもらえました。そこで体験した実験がすごく面白くて、この時からサイエンスの世界に興味を持つようになりまし。当時の高校の先生には非常に感謝しています。」  
島根大学入学後、配属された研究室で「有機合成」と出会います。これは、有機化合物に化学的に手を加えて、異なる物質同士を繋ぎ

合わせた、新たな機能を持たせたりするものです。「学部・大学院とこのテーマでやってきて、この経験が少しでも活かせる仕事に就きたいと思っていました。有機合成ができる化学系の企業を探していたところ、神戸天然物化学の存在を知りました」。出雲工場には島根大学OBが多く在籍しています。大学の先生を通じてOBの方と直接話す機会を設けてもらい、仕事のイメージなど詳細を聞いて、採用試験を受けることになりました。

「現在の業務では、大学でやってきた有機合成の知識に加え、学生実験等で教わった基礎的な操作、単位換算なども使っています。そういう点で、大学の学びが仕事に直接役立っていますね」。一方で、限られた納期やコストで業務を進めていくことは、学生時代とは大きく異なる点だと竹澤さんは言います。「学生時代もある程度の期限はありましたが、それよりも新規性を求められ、比較的時間をかけて研究を進めることができました。しかし仕事では決まった期限までいかに安全に、効率よく・安定した品質のものを作るのが求められます。安全性・納期・コストは入社してから特に意識するようになりました。」



2022年12月に完成予定の品質管理棟。

2022年4月、品質管理体制のさらなる強化・充実に目指して、出雲第二工場に品質管理棟の建設工事が始まりました。新棟建設にあたって、建屋・設備・機器導入など建設業者や設備業者とのやりとりを竹澤さんが実施しています。新棟には新たな試験装置も搬入予定で、すでに試験運用も行っています。「新しい機器なのでまだ不明点が多いですが、これまでもより様々なデータが取れるので、お客様からの多様な要望に応えられるようになると思っています。今は装置への理解を深めているところです。」

新棟の完成予定は2022年12月。実際の運用は年明け以降になるそうです。技術のさらなる向上を通じてお客様からより信頼される仕事ができるよう、竹澤さんのさらなる活躍が期待されます。

### 読者の声

広報しまだい vol.52に寄せられた声をお届けします。

材料エネルギー学部の今後の展望について知りたいです。

(宮城県仙台市・30代男性)

東京五輪の植栽おもてなし事業に参加されたその後が詳しく報告されていて、大変誇らしく思いました。

(兵庫県神戸市・70代女性)

若い人達の活躍を楽しもうらやましく心から応援しています。

(島根県大田市・80代女性)

新しい学科等が早くできて、地元で活躍されることを望みます!

(島根県出雲市・60代女性)